

「まちを好きな人が多いと、まちは良くなる！」（メルマガ 2022 年 5 月号）

川崎市大山街道ふるさと館では、4 月 29 日から 6 月 8 日まで、今年度第 1 回企画展として、「さとう菊夫作品展 ～心に残る川崎の風景～」が開催されています。

今回の企画展は、心に残る川崎の風景を描き続けた画家である、さとう菊夫さんの作品 26 点を一挙公開するものです。さとうさんの絵には、これまで財団発行の情報誌「Stage Up」の表紙を飾っていただきましたので、印象深い方も大勢いらっしゃることでしょう。

作品は 1980 年代が中心となりますが、緻密で美しい色合いの作品は、当時の川崎に原風景をお持ちでない方にとっても惹かれるものがあると思います。私も大型連休中にこの展示を見ましたが、ちょうどその時、若い方々がご覧になっていまして、「すごくきれいな絵だね。」「こんな風景が見られたんだね。懐かしさを感じるね。」などとお話しされていました。川崎の魅力を再発見していただけたように感じました。

政令指定都市は全国に 20 都市ありますが、その多くは都道府県庁所在地であり、江戸時代には城下町であるなど、古くから歴史と文化の中心であるといえます。これに対し工業都市として発展した川崎市は、かつては文化的な魅力に乏しいと言われたこともありましたが、実際には橘樹官衙遺跡が国史跡に指定されたり、伝統芸能が脈々と受け継がれたりするなど、有形・無形の文化財が市内各所で歴史を刻んでいます。

NHK 大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」の一人ではありませんが、川崎市域に本拠を構えた武将に稲毛三郎重成がいます。重成は畠山重忠と同様、北条政子の妹を妻とし、頼朝の義兄弟にもあたります。重成は妻思いの優しい武将で、頼朝の再上洛に随行したその帰路に妻の危篤を知り、頼朝から下賜された駿馬で急ぎ本領へ戻ったという話が伝えられるほどの重臣ですが、北条氏によって重忠とともに滅ぼされてしまいます。多摩区枳形の廣福寺は重成によって中興されたと伝わっているお寺で、入口には「稲毛領主 稲毛館跡」と掲げられており、境内には重成と妻のお墓があります。当財団では川崎の魅力アップにも繋がることを期待して、ホームページ「かわさきの生涯学習情報」に「特集『源頼朝と稲毛三郎重成』」を組んだり、「Stage Up」で取り上げたりしていますのでぜひご覧ください。

今日、川崎市は、ミューザ川崎シンフォニーホールに代表される「音楽のまち」、「映像のまち」や「スポーツのまち」など、多彩な魅力発信が進められています。以前は文化・芸術に接する機会は、東京や横浜に出かけないとなかなか得られませんでした。現在は川崎が文化・芸術的事業で人を呼べるまちに発展していることは喜ばしいことです。

生まれ育ったふるさとであるか否かに関わらず、「地元・川崎」に魅力を感じることはまちの活性化に繋がると思います。「まちを好きな人が多いと、まちは良くなる！」は 2016 年川崎市総合計画の表紙に掲げられた言葉ですが、郷土・地元への誇りや愛着が醸成されることはたいへん意義がありますし、川崎の発展にも大きな影響を及ぼすものと思います。こうした点からも、生涯学習財団では今後も引き続き、様々な機会を通じて川崎の魅力発信に努めたいと思います。(N.W)